



山田 学史 (やまだ がくし) 第五小 5 年生

作品名: 人生の分かれ道

図 書: おおかみこどもの雨と雪

ぼくは、「おおかみこどもの雨と雪」という本を読みました。この本を選んだ理由は、映画でもやっていて、友達が、

「とてもおもしろいよ。」

とすすめてくれたからです。

この本の主人公は、子どもの雨、その姉の雪、そして二人の母の花です。雨はとてもおとなしくて気弱な男の子です。それに対し雪はおてんばで好奇心おうせいです。また、花はとても優しく、雨と雪のことを第一に考えてくれます。

雨と雪が少しちがった成長をしていくのを読み、ぼくは

「おおかみこどもは人間と比べると、ペットだと思われてしまう悪いところや、人間よりも体力があるという良いところがあったりするから、人間とは少しちがう成長をするんだ。」と思いました。

ぼくが一番心に残ったことは、雨と雪が自分の進む道を自然に決めていたことです。雨は学校には行かず「自然観察の森」というところにきて毎日自然のことを学び、オオカミの生き方を選びました。雪は学校へちゃんと行き、人間の生き方を選びました。こうして自然に大きなことを選ぶことは、ぼくはすごいと思います。なぜなら、おかしのをどれを買うかも迷うぼくなのに、そんなに大きいことを自然に決めるのはとてもすばらしいと思います。

この本を読んで学んだことは、二つあります。一つ目は、どんなに苦しく、どんなにも悲しくても、あきらめず、前へ前へと進み、災難をのりこえていけば、すばらしいものがそこにはある、ということです。二つ目は、人にはそれぞれちがうものがある。けれども、その自分の意見、気持ちを捨てずに、それを自分が伝えたい人にぶつけ、自分の意見をいろいろな人に知ってもらえれば、自分も幸せになれるということです。

ぼくにもきっと人生を分ける分かれ道があると思います。そのときには「自分な

「なにができるか」ではなく、「自分はなにをやりたいか」を優先し、楽しい人生を送っていきたいです。